

三たび

ヒロシマの 平和を疑う!

～国民の安心安全をいかに守るか～

「核廃絶」と「平和」の間に潜む溝…、無策日本! 大震災の影で進む国家と国境の危機。大災害の克服、核利用、平和と安全。混迷日本の未来を賭してタブー無き専門的洞察を聞く。



講師 田母神俊雄氏

第29代航空幕僚長

二人の専門家がタブーを排して語る真の平和論
原発、災害対応、核兵器、領土保全…



講師 青山繁晴氏

株式会社独立総合研究所 代表取締役社長・兼・首席研究員
原子力委員会・原子力防護専門部会・専門委員

2011 8.6 (土)

(平成23年)

17:30～20:00 (開場16:30)

リーガロイヤルホテル広島

4F ロイヤルホール (広島市中区基町6-78)

チケット 前売 1,800円 当日 2,300円

学生 1,000円 (事務局へお申込み下さい)

【チケット販売所】

■デオデオ本店プレイガイド

■チケットぴあ Pコード 619-302

店舗/広島バルコ・フタバ図書MEGA・フタバ図書GIGA・アルパーク天満屋・天満屋八丁堀店・福屋広島駅前店ほか

■全国のサークルKサンクス

■全国のセブンイレブン

※発券手数料105円が必要です

メール・FAXでも受付中(7月25日まで)

氏名、枚数、郵送先、電話番号を送信ください。

メール 86@jp-pride.com

FAX 082-831-6206

■ボランティアスタッフ募集

この講演会はみなさんの支援で成功します!

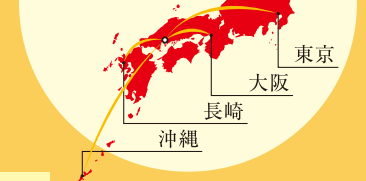
(支援金受付・ポスター掲示協力、メッセージなど)

TEL082-831-6205まで

インターネット中継を
日本各地で!!

沖縄・長崎・大阪・東京 他

詳細はHPでご確認ください。



「ヒロシマの平和を疑う」とは戦後66年の永きにわたり、国や広島が発信してきた平和についてのメッセージや平和行政のあり方に対する真摯な問い直しを意味するものであり、「広島から日本再生へ」との願いを込めたものです。

主催 日本会議広島・「日本の誇りセミナー」実行委員会 広島市安佐南区川内4-11-18 TEL082-831-6205

協力 平和と安全を求める被爆者たちの会 <http://realpas.com>

協賛 長崎原爆展示を正す会、新聞アイデンティティ、日本の心を伝える会、日本ウイグル協会、MASUKI情報デスク

ホームページでも情報発信中!!

日本会議広島

検索

講師プロフィール



講師
第29代航空幕僚長
田母神俊雄氏

昭和23年福島県生まれ。防衛大卒業後、航空自衛隊に入隊。平成19年、航空幕僚長に就任。

平成20年10月、民間の懸賞論文へ応募した作品が政府見解と対立するものであったことが問題視され、幕僚長を更迭、定年退官となる。

11月参議院防衛委員会に参考人招致されたが、論文内容を否定するつもりはないことを改めて強調した。



講師
株式会社独立総合研究所
代表取締役社長
兼 首席研究員
青山繁晴氏

昭和27年神戸市生まれ。慶大文学部中退、早大政経学部卒。共同通信社で経済記者などを務めたあと、政治部へ。新防衛大綱、安保再定義の日米共同宣言などをいずれもスクープ。三菱総合研究所に迎えられ、安全保障・外交から金融・経済までを包括する国家戦略の立案に携わる。平成14年春、独立総合研究所を創立。講演や執筆活動のほか、TVタックル(テレビ朝日系列)などに出演している。

作家としても小説『平成』(文藝春秋)を上梓。近著は「王道の日本、覇道の中国、火道の米国」(PHP研究所)

私たちが協力しています

真の平和を構築するために

原爆で斃^{たお}された人びと、東日本大震災で犠牲になった人びとに深い哀悼の心を捧げます。私たちは、全力で震災被害に立ち向かう方々に心から敬意を表し、共に生きる者として能う限りの協力を惜しみません。66年前の広島、長崎、そしてその他戦災諸都市の惨状を特に身近に感じる私たちにとって、震災の爪跡と放射線からの避難は決して他人事ではありません。そしてこれからも私たちは、二度と核兵器の被害者にならない、平和で安全な国の姿を求めます。しかし、今私たちが大災害に目を奪われている間にも、災害支援と並行して国境や艦艇への接近偵察飛行、さらに我が国領海内に海上基地の建設強行を行う隣国があります。

震災の少し前には、海保艦への漁船の突撃があり、隣の分断国家では軍艦への魚雷攻撃や民間人の住む島への砲撃で犠牲者も生じました。北アフリカやペルシャ湾岸の産油国などでは、革命から動乱・内戦が収束することなく拡大混迷の度を深め、我が国の産業と生活に負の影響が顕れています。

昨年のノーベル平和賞の授賞式は、中国とノルウェーの異常な対立の中で挙行されました。しかしそ

の同じ時期、両国は北海の天然ガス採掘権を売却する協定を結びました。理念では先鋭に対立しつつ別の部分では協調する。これは一筋縄では行かない国家関係の複雑さを示すささやかな一例に過ぎません。

広島では、長い間「核廃絶」が唱えられてきました。しかし、いつしか「核廃絶」を唱えることだけが絶対的な善として目的化し、それ以外の思考も議論も許さない、硬直的な世界観が強要されているのが現状ではないでしょうか。

私たちは今、我が国の置かれた状況を冷静に見つめ、広い専門的視野から、平和と安全と復興の間に横たわる複雑で困難な問題をありのままに認識することが、一層重要になったと考えます。原爆後の惨状を彷彿とさせる震災の姿は、核の存在する混迷の時代の中で、原爆忌の日こそ祈りと共に、私たちと子孫の平和と安全をどう構築するのか、多面的な観点から現実的な方策を考察せよ、と私たちを促していると感じます。

平成23(2011)年5月3日

『平和と安全を求める被爆者たちの会』
事務局長代理 池中美平

サポーター登録をお願いしております。〔会の趣旨など詳しくはホームページをご覧ください。〕

<http://realpas.com>